

▽取組事例名	町営バスの運行見直し	▽取組期間	平成18年度～ (継続中)
		▽市町名	伊方町

▽取組概要
平成17年の合併以降もそれぞれ旧町単位の形態で運行されていた町営バスを全町統一の新しい運行方式に移行した。

▽取組みの背景
<p>合併以降も旧町単位で不均一であった町営バス事業だが、料金、便数等の格差が生じており、住民からもより利便性の高いバスを望む声が高かった。そのため、合併以降、町営バスの全町統一の検討が進められたが、民間路線との競合、多岐に亘る路線の利便性の維持、コスト等多くの課題があり難航していた。</p> <p>【旧町の各町営バス概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧伊方町 1台で1地域のみ運行 運賃無料 ・旧瀬戸町 スクールバス混乗 運賃1回100円 ・旧三崎町 1台で全町内循環 運賃無料

▽取組みの狙い・具体的内容
<p>(取組みの狙い)</p> <p>交通空白地帯の解消、交通不便者の生活交通確保、高齢者の利便性向上、そして全町統一の交通システムの確立を目標とした。</p> <p>(具体的内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成19年1月 町営バス検討委員会（メンバーは町職員）を設立し検討 ・平成19年7月 町営バス運行委員会（メンバーは町職員、民間事業者、関係団体）を設立し検討 ・平成19年12月 伊方町地域公共交通会議（メンバーは運行委員会+運送法に定められた者）を設立し運行案を承認してもらう。 ・平成20年3月 試験運行開始 ・平成20年4月 本格運行開始 <p>【運行概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10人乗り車両5台の運行（平日8:00～16:00） ・1回の利用につき300円（チケット制[10枚綴り]） ・デマンド交通方式（予約制乗合型運行：予約センター設置） ・商工会へ業務委託（車両運行はタクシー会社へ再委託）

▽取組みを進めていくなかでの課題・問題点（苦労した点）
<p>行政による旅客運送業への安易な介入は、民間事業者の力を削ぎ、結果的に民間の路線廃止、事業撤退を招く結果となる。そのため、検討段階より民業との共存共栄も一つのテーマとして、民間業者への理解と協力を求めた。</p>

☆工夫した点

当町独自の工夫ではないが、デマンド交通の運行に町内のタクシー業者全てに声を掛け、車両運行に参画させることにより、民間業者へ定額の収入を与えるなど民業への配慮を行った。また、車両に乗降のための手摺り、乗降ステップをつけ高齢者の利用に対応した。

▽取組みの効果

- ・導入前後の、町営交通機関の利用者数を比較した場合、導入後の方が年間延べ数で増えている。
- ・路線バスと違い、可能な限り自宅から目的地の玄関先まで送迎を行うため、特に高齢者の利便性が向上したと思われる。
- ・それまで、民業を圧迫していた町営バス事業だが、民間業者を参画させることにより、逆に民間との協働の効果もある程度得られた。
- ・ヘビーユーザーはやはり高齢者であるため、人口減少やマイカー年代の高齢化とともに利用者は減少傾向にある。

▽住民（職員）の反応・評価

運行開始当初は行政も利用者も不慣れな面が多く、利用者からは否定的な意見も多かったが、双方の慣れとともに徐々に運行も効率化され、否定的な意見もなくなった。

☆取組み効果を踏まえたフォローアップ

現在も日常の運行には様々な課題があるが、町営バス運行委員会において運行ルールの改善を図っていくこととしている。

☆将来的な構想のほか、他団体へのアドバイス

地域公共交通の維持については、全国的に民間路線バスの撤退が進む中で、どの自治体でも苦慮している大きな課題と思われる。

一概に生活交通といってもそれぞれの地域でそれぞれの事情があり、全ての住民に100%満足してもらえるシステムの構築は不可能に近い。

デマンド交通の様な新しいシステムを導入し、ある程度の住民に利便性が画期的に上がったと満足してもらえるものを選ぶか、これまでのシステムをさらに充実させて全体的な利便性をある程度上げることを選ぶかは、現況を十分に分析する必要があると思われる。

当町は新しいシステムを選んだが、今後、さらなる利便性向上のための改善を図っていく必要がある。

また、民間と比較して非常に安価な運賃設定としており、運賃収入で賄える事業ではなく、住民サービスのための費用ととらえているが、町の負担は大きいため経費削減も今後の課題である。